

令和４年度第１回 岡山県河川整備検討委員会 意見・質疑応答一覧表（旭川水系中流ブロック河川整備計画）

内容	事務局回答
国の整備計画の目標流量（5,000m³/s）に対する整備はまだできていないと思われるが、今回の計画は、国の整備も考慮しながら実施していくのか。	上流側の県管理区間の整備により、下流側の直轄管理区間で溢れることがないように、国の整備とも整合を図るとともに、国の目標流量を超えない流量として、H30.7洪水の目標流量を設定している。
下牧観測所で9.61mの水位を観測しているが、その周辺の浸水状況はどうだったのか。	下牧観測所より上流の中牧地区や御津国ヶ原地区では、越水による浸水被害が発生していることから、河川整備を進めていく必要があると考えている。
旭川ダムのダム再生事業について、現行操作とダム再生後のダム操作によるピーク放流量が100m³/sの低減だけでは、ダム再生事業の効果が少ないように見えるが、効果についてもう少し詳しく説明してほしい。	H30.7洪水を現行操作で再現した場合、緊急放流を行う可能性があったが、ダム再生後の再現では、操作規則どおりの放流が可能であり、ダムの治水機能が活用できるとともに、下流への放流量が低減できている。
- ダム再生事業により、H30.7洪水のような2山洪水に対して、1山目から2山目の間の放流量を増やすことで、2山目の放流量を少なくすることができる。 - そのようなダム操作方法について、ダム再生事業と併せて考えてもらいたい。	ダム操作方法について、ダム再生事業を実施する国と相談していきたい。

令和４年度第１回 岡山県河川整備検討委員会 意見・質疑応答一覧表（旭川水系中流ブロック河川整備計画）

内容	事務局回答
・ 現行計画の計画期間は 20 年であり、H30 で 15 年が経過しているが、整備が遅れているのではないか。	・ 竹谷ダム及び河平ダムについては完成したが、その他の河川整備については、用地買収や予算の関係で終わっていない。 ・ 今回の変更では、御津国ヶ原地区の追加等を踏まえ、計画期間を 30 年としており、事業が完了するよう地元調整等しっかり行っていきたい。
・ 38K 右岸は、河川の流れに沿った築堤計画だが、堤内地は大部分が田畑であるため、現地施工の際には、家屋を守り、田畑は遊水地として残すなど、流域治水の考え方を踏まえた整備を考えてほしい。 ・ 誕生寺川についても、築堤区間の背後地が田んぼだけの箇所もあったため、流域治水の考えを踏まえた整備を考えてほしい。	・ 現地施工にあたり、地域住民と調整しながら、流域治水の考え方を踏まえた整備を検討していきたい。
・ 流域治水プロジェクトで、病院などの重要施設への止水壁設置に対する岡山市の助成があるが、同様の対策に対して、県として何か考えていることはあるか。	・ 止水壁の設置については、市が対応すべきことと考えており、県としての対応は考えていない。

令和4年度第1回 岡山県河川整備検討委員会 意見・質疑応答一覧表（旭川水系中流ブロック河川整備計画）

内容	事務局回答
・流域治水は、治水対策に対する大きな方向転換であるが、住民や学生等も知っていく必要がある。 ・R4 から、高校で地理（自然環境と地域防災等）が必修となることから、教育部局と連携し、流域治水を浸透させてほしい。	・流域治水については、県庁内部で連絡会を設置しており、教育部局も構成員のため、積極的に情報共有していきたい。
・24K～26K 左岸は流下能力が低く、一部の家屋も低い位置にあるようだが、個別に対応する予定はあるか。	・H30.7 洪水でも家屋が浸水したことから、家屋浸水を防ぐ局部改良により個別に対応していきたい。
・誕生寺が法然上人の生家跡に建立されたというのは伝承であり、確定事項ではないため、表現を修正すること。 ・金川地域は、中世には備前国の要衝の一つであったことから、追記すること。	・誕生寺の表現については、修正する。 ・金川地域についても、内容を相談させていただき、追記する。
・表 1-2-1 の数値に「,」を追記すること。	・ご指摘のとおり修正する。
・河川管理の中で、ごみの処理までは記載しないのか。	・河川整備計画では、ごみの処理については記載しないが、県では、岡山県海ごみ対策連絡調整会議があり、そのなかで、効果的な対策を研究していきたい。
・「ごみ」とは、家庭から出るものであり、事業系からでるものは「廃棄物」と定義されている。 ・「河川ごみ」とは、どのようなものを想定しているのか。	・「河川ごみ」は、河川を流れるようなものを想定しているが、記述について検討する。

令和４年度第１回 岡山県河川整備検討委員会 意見・質疑応答一覧表（旭川水系中流ブロック河川整備計画）

内容	事務局回答
・災害時には、通常時では流れてこないごみが大量に河川を流れて河口部や漁港等に集まり困っている。 ・災害時における河川ごみの対応についても記載してほしい。	・災害時における河川ごみの対応に関する記述について検討する。
・三谷川及び誕生寺川の整備目標については、概ね 50 年や 10 年に 1 回程度の洪水規模としているが、H30.7 洪水の洪水規模としていないのはなぜか。	・旭川本川では、浸水被害があった H30.7 洪水を目標としているが、三谷川・誕生寺川は、H30.7 洪水の出水が現行計画の目標流量以下だったため、目標は変えていない。
・小倉～福渡地区の標準断面図について、掘削により河道断面を確保することは理解できるが、できるだけ現在の自然環境を維持するよう、河道掘削を河床まで掘り下げるのではなく、水面付近の掘削で対応できないか。	・現地施工にあたり、必要な流下断面を確保した上で、対応を検討したい。
・流下能力図は、参考資料として公表しないのか。	・流下能力図の公表について、検討する。
・河川ごみの問題について学生にも知ってもらう機会として、「おかやまアダプト」推進事業を活用してはどうか。	・「おかやまアダプト」推進事業では、ごみの回収も対象としている。 ・アダプト団体を高校生等にも展開できないかと検討しているところであり、教育部局とも連携しながら進めていきたい。

令和4年度第1回 岡山県河川整備検討委員会 意見・質疑応答一覧表（旭川水系中流ブロック河川整備計画）

内容	事務局回答
・「旭川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」には、教育部局も含まれているのか。 ・学校や公民館などから流域治水にかかる講師を河川課に依頼した場合、対応してもらえるか。	・教育部局はメンバーではないが、県庁内部の連絡会において、流域治水にかかる情報共有を行っている。 ・今まで流域治水に関する講師として対応した事例はないが、要望があれば、防災部局による説明会の活用や、国とも相談しながら対応を検討したい。
・先日、中学校へ防災教育の講師として説明を行った。 ・その母体の委員会には、以前は河川課もメンバーになっていたように思うが、今年度は参加していなかった。 ・防災教育にも、教育部局と連携して対応してほしい。	・防災教育については、流域治水にかかる情報共有など、教育部局と協力して取り組んでいきたい。